## 2050年には、65歳以上の高齢者1人を1.2人の現役世代で支える見込み(p7)

65歳以上の高齢世代人口と20~64歳の現役世代人口の比率の推移を見てみると、

1950年時点では65歳以上の高齢者1人を10人の現役世代で支えていたのが、

2015 年には 65 歳以上の高齢者 1 人に対して現役世代 2.1 人へと急激に減少している。

今後も支え手は減少し続け、2050(平成62)年には1.2人の現役世代で65歳以上の高齢者を支える見込みとなっている。 仮に20~69歳を現役世代人口、70歳以上を高齢世代人口として計算してみても、2060年には高齢者1人に対する現役世代の人数は1.6人まで減少する見込みである。

## 我が国の高齢化は、世界に類を見ないスピードで進展。今後はアジアで急速に高齢化が進展していく見込み (p8)

欧米主要国の高齢化率を比較してみると、1980年代までは最低水準であった我が国の高齢化率は、2005年には最も高い水準となり、 その後も将来にわたって最高水準を維持していくことが見込まれている。

続いて、アジア主要国の高齢化率について見てみると、今後、我が国を上回るスピードで急激に高齢化が進行していく見込みであり、 2060年の各国の高齢化率は、2015年と比較しておよそ3倍になる見込みである。

また、高齢化の速度について、高齢化率が 7%を超えてからその倍の 14%に達するまでの所要年数 (倍加年数) によって比較すると、フランスが 115 年、スウェーデンが 85 年、比較的短いドイツが 40 年、英国が 46 年であるのに対し、<u>我が国は、1970(昭和 45)年に 7%を超えると、その 24 年後の 1994(平成 6)年には 14%に達している</u>。

どの国も高齢化は進展しているが、特に我が国の高齢化が著しく速いスピードで進展してきたことが分かる。さらに、韓国、中国の倍加年数を見てみると、それぞれ18年、23年と予測されており、我が国を上回るペースで高齢化が進展する見込みである。このように、高齢化は世界各国においても我が国の後を追って直面する問題であり、その先陣を切っている我が国の対応には、グローバル社会が極めて高い関心を寄せている。